

第68回可児駅伝競走大会 審判長注意事項

1. 競技全般について

- ・本大会は 2025 年度公益財団法人日本陸上競技連盟競技規則及び日本陸上競技連盟駅伝競走規準に基づいて実施するものとし、大会中は、競技役員の指示に従うこと。
- ・会場では、一般来場者も往来するため、競技者は、走路(主に左側)としてコーンで仕切られた部分は、仕切られた走路以外を走行してはならない。また、走路が仕切られていない通路は役員の指示が無い限り、走路の中央線より左側を走行すること。また、一部走路を一般来場者等が横断する箇所は、役員の指示に従い、注意して走ること。
- ・伴走は一切認めない。
- ・競技用「タスキ」は、主催者が用意したものを使い、必ず肩から斜めに脇の下にかけなければならない。また、タスキを身に着けずゴールした場合は失格とする。
- ・競技者が途中で競技を続行できなくなったときは、原則として当該チームのその区間の競技を無効とする。その場合、次の区間の次走者は、審判長の指示により、最終順位の走者と同時にスタートすることができる。ただし、そのチームの記録や成績の扱いは審判長の判断による。
- ・競技中の事故、怪我については応急処置のみ行い、後の補償は実行委員会の加入する保険の範囲とする。
- ・各区間の競技者は、当日のアナウンスに従い、所定の時間までに招集場（中継所手前）に集合し、アスリートビブス（ナンバーカード）を前後に着用した状態で、役員の確認を受けること。

2. 中継

- ・中継線は、幅 50mmの白線で示す。タスキの受け渡しは、中継線から進行方向 20 mの間（中継ゾーン）に手渡しで行わなければならない。中継線の手前からタスキを投げ渡してはならない。
- ・中継の着順判定およびタイムの計測は、前走者の胸が中継線に到達した時とする。
- ・タスキを受け取る走者は、前走者の区域（中継線の手前の走路）に入ってはならない。また、タスキを渡した走者は直ちにコース外に出なければならない。
- ・タスキ渡しに際して、タスキを外してよいのは、中継の前走者は中継線の 100m手前から、次走者は、中継後 50mまでの範囲をおおよそ目安とし、黄色のコーン付近を目印とする。
- ・次走者は、アスリートビブス（ナンバーカード）番号のコールを受け、役員の指示のあるもののみ中継ゾーンに入ることが出来る。それまでは、コースに入ってはならない。
- ・周回遅れの走者は、中継ゾーンの中の、進行方向から見て右端で、タスキ渡しを行う事。
(周回遅れでない走者の妨げにならないよう、役員の指示に従って行うこと)

3. 第1区走者のスタート要領

- ・第1区走者のスタート位置は、部門ごとにアスリートビブス（ナンバーカード）番号順とする。
- ・スタートの 10 分前、5 分前、1 分前、30 秒前、10 秒前を知らせる。
- ・5 分前から 1 分前までの間に、走者は競技の服装になってスタートライン（中継線を兼ねる）の 1 m手前、または2 列目以降に整列する。
- ・スタート 10 秒前の告知とともに、スターターが「オン・ユア・マークス」と合図するので、競技者はスタートラインに着く。（ライン上に足が乗らないように注意）
- ・ピストルの合図でスタートする。フライングがあった場合は、1 分後に再スタートする。